

「祈ってください」とChatGPTにお願いしてみた

今話題になっている対話型AI「ChatGPT」。問いかけに対して意味合いを理解し、適切な返答をくれるAIだというので元プログラマーの私にはとても興味を惹かれる存在でした。その為、今回はこのChatGPTに「**仏教者として祈ってください**」という一文でお願いしてみました。その結果が下記です。

ChatGPT：「私はAIであり、物理的な存在ではないため、直接的な祈りを行うことはできません。しかしながら、あなたの願いや祈りに対して**共感し**、サポートすることはできます。あなたが祈りを捧げる際には、心を静め、深い呼吸を行い、内なる静寂に入ることが重要です。その状態で、自分自身や他者、世界の平和や幸福を願う言葉やフレーズを思い浮かべながら、心の中で祈りを捧げてください。また、仏教の教えに基づいて祈りを行う際には、以下のようなフレーズや言葉を使用することが一般的です。

南無釈迦牟尼仏・南無阿弥陀仏・南無観世音菩薩・南無大師遍照金剛・南無日蓮大聖人

これらのフレーズは、仏教の守護者や教えに対する敬意を表し、加護や救済を求めるためのものです。心を込めてこれらの言葉を唱えることで、あなたの祈りがより深くなり、内なる平和や悟りへの道を歩むことができるかもしれません。あなたの祈りが叶うことを**心から願っています。**」

お祈りの言葉に「南無妙法蓮華経」が入ってなかったことは残念ですが、なぜか「南無日蓮大聖人」が入ってましたね。私が投げかけた簡単な一文に対して上記のような立派な答えが返ってくる、世の中は本当に進んだなと感心しました。

このChatGPT、今後はより日本語を学習させ政府答弁を含めて幅広い分野での活用が検討されています。そうなれば人材不足で悩む日本社会に対して救世主となるのではないかと期待をされています。そして一方では、様々な職業が影響を受けて失業者が増えるのではないかと懸念されています。**私見ではありますが、間違いなくAIは今後の社会を変えていく大きな力になる**と思います。部分的な人手不足解消と一時的な失業者増加も日本では現実のものとなるでしょう。では、AIを禁止すれば良いのかというところも難しい話です。アメリカや中国などは決してAIの開発をやめないでしょうし、便利なものがあると分かれば誰だってそれを利用します。**仏教的にも全ての物は変わりゆくという諸行無常という思想があるように今からAIの無い世界に逆行する**

ではAIは人の仕事全てを代替し、**人の役割は無くなるのでしょうか。そんなことはない**と思っています。例えば私はChatGPTに対して法話も頼んでみました。しかし回答はあくまで仏教の言葉や概念の紹介だけになってしまって、今回のように時事問題や自分の想いと絡めて、皆様に伝えるというところまではいかないのです。ただ、私の話や仏教で分からない言葉や表現を調べるときに楽になったり、AIから引用などされることでより多くの方が仏教に触れるきっかけになるかもしれません。

私は**人にしかできないことがある**と思っています。それはありきたりですが「**心をもつ**」ことです。**現状のAIに心が宿ることはありません**。なぜならいかに思考して巧みな返答をしてくれても「**思考**」自体は心の片鱗、一部でしかありません。

誤解を恐れず、略してしまうと**仏教では「心＝心身を含めた総合的な生きる営み」**だと説かれています。そしてその中では**身体感覚や欲望なども**そうですし、**自身の経験や認識なども**関連します。例えば「桜を見た」と文章で書くとそれだけで終わってしまいますが、我々が実際に桜を見た際には**各々感じ方や表現の仕方が違う**はずで
す。「この桜は以前に見た〇〇の桜に似ているな」や「お花見してお酒を飲みたい
な」と思う方もいるでしょう。海外の方が見ればそこまで思い入れは無く「綺麗な花
ですね」と思うかもしれません。そういった**感覚や認識、経験など全てを総合して心
が形成**されています。それらをAIが持てるかと言われると現時点では難しいでしょう。
感覚や欲望をつかさどる「**身体**」を持っていないですし、体験の全てを余すことなく
言語化してAIに学習はさせられないからです。

更に**AIはいくら進歩しても**プログラムやネットなどで学習したデータ、「**在るもの**」
を元に回答するだけです。**人のように「無いもの」まで「想像」**してしまう、と
いうことはないのです。例えば「**期待・不安・後悔**」というのは心がなければ覚えま
せん。それは「無いもの」を想像して**心が揺れ動く、人独特の感覚**です。「在るも
の」からプログラムされた判断基準に則り、最良を選択するAIには持てない感覚です。

そして**期待や不安、後悔などが無いからこそ悩みや苦しみとも無縁**です。だからこ
そ、いくらAIが「共感します・心から願っています」といっても、そこに不安に怯え
る体験や悩み苦しみから抜け出したいという想いが**ないAIの言葉は、理解はできま
すが人との共感**は覚えられず、心に響き辛いと思っています。今後、**定型文や法律に
則ったビジネスはAIが非常に活躍する一方で、人同士の交流など共感が持てる「心」
の通った言葉や行い、人と直接対面することの大切さなども見直されていく**と思いま
す。お寺としても「**祈り**」や「**供養**」などがそういった「**心**」の通った行いだ**と気づ**